

人と魚と海のネットワーク
香川県漁連ホームページ

<http://www.kagyoren.jf-net.ne.jp/>



JF
JF香川漁連

高松市北浜町 8-25

TEL 087-825-0350

FAX 087-851-0699

謹賀新年

香川県漁業協同組合連合会

代表理事会長 嶋野 勝路



新年明けましておめでとうございます。謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

旧年中は、本会業務運営につきまして、格別のご理解とご協力を賜り、ここに厚く御礼申し上げます。

振り返りますと昨年は、石破茂首相の一年足らずでの退陣表明、その後10月には高市早苗氏が女性初の内閣総理大臣に任命されるなど、日本の政界において大きな転換期を迎えました。また、10月1日以降、最低賃金が全国平均で66円底上げされるなど物価高に拍車がかかり、食料品を始め、各方面において値上げが加速した一年となりました。一方、自然環境に目を向けますと、統計史上最も早い6月27日での梅雨明けとなった四国地方では、連日35度を超える猛暑日が続く、瀬戸内の海況を大きく変化させ、その影響からか冬に出荷が最盛期となります。牡蠣養殖は、香川県をはじめ、広島県、岡山県などで8割以上が死滅するという甚大な被害が発生しました。引き続き国・県等へ積極的な協力と支援をお願いしてまいります。今年は「午年」、とりわけ60年に1度の「丙午」となり、熱いエネルギーに満ちて、活動的になる年と言われております。何事にも力強く積極的に活動できる充実した年となりますよう願うばかりです。

このような中、県下の漁業を振り返りますと、漁船漁業では、円安や人件費の上昇等の影響による物価の高騰、海洋環境の変化等による漁獲量の減少が続く、依然として厳しい環境下での漁家経営を余儀なくされております。また、魚類養殖業では、在池尾数が少ない養殖ハマチ、カンパチの価格高騰、夏場の高水温による成長不足等により消費が進まず、

厳しい状況となっております。一方、ノリ養殖業では、11月下旬から県下全域での本張りが開始されました。一昨年に比べ栄養塩が低調に推移しておりますが、年末には第1回乾海苔共販を実施しており、今後生産が順調に継続され、今漁期が豊漁となることを祈念いたしております。

本会といたしましては、引き続き県内水産業の振興に努めるとともに、漁船リース事業、新リース事業、機器等導入事業等を推進し、地域全体の競争力強化を図ってまいります。併せて燃油及び配合飼料のコスト高騰対策である漁業経営セーフティーネット構築事業に加え、令和5年より開始されたALPS処理水海洋放出に伴う漁業者支援事業についても推進していく所存であります。さらに、藻場・干潟の保全や漁場環境整備、種苗放流による資源回復、栄養塩の適切な管理等を香川県、関係機関との協力、連携のもと、推進するよう努めてまいります。

また、県産ハマチ・ノリ・イリコ等の消費拡大や販売促進を図る「さぬき海の幸販売促進協議会」事業においては、昨年開催されました関西万博にて池田香川県知事出席のもと県内水産物の試食・PRを行い、さらに流通懇談会及びPRキャラバンとして、大阪市中央卸売市場を訪問、市場卸売業者等と情報交換し、県内水産物のPR活動を行いました。さらに、県内外でのフェアの実施、イベント等への積極的な参加で県産水産物の消費拡大を図ってまいりました。本年も県、関係団体、系統、業界が丸となり県産水産物の販路拡大、知名度向上を一層推進してまいります。

今後も厳しい経営環境が予想される中、会員・所属員の経済的、社会的地位の一層の向上を目指して諸事業に取り組んで参る所存でありますので、会員各位をはじめ関係者諸賢におかれましては、なお一層のご協力をお願い申し上げます。

最後に、皆様方の限りないご繁栄とご健勝を祈念いたしまして、新年のご挨拶と致します。



香川県海水魚類養殖漁業協同組合

代表理事組合長 嶋 野 文 太

新年明けましておめでとうございます。年頭にあたり、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

昨年中は当組合の事業運営につきまして、組合員の皆様を始め、関係官庁・関係団体の皆様には格別のご理解とご協力を賜り、心より厚くお礼申し上げます。

昨年を振り返りますと県内海面養殖では、ハマチ・カンパチ共に順調な種苗搬入となり、ハマチは全国的な在池薄、また輸出用としての引き合いも強いものの、浜値の高騰により荷動きは悪く、完売は年明けに持ち越されました。また、カンパチにおきましても浜高により荷動き悪く、販売には苦戦したものの12月中旬にはほぼ完売となりました。

経営面で見ますと、養殖餌飼料や資材・燃料類の価格高騰が継続、国内養殖漁業全体の経営基盤は大きく悪化していたものの、在池薄の影響による魚価高騰や生餌の価格下落に伴い、生産者は一息つける状況になったのではないかと考えております。

国の施策に目を向けますと、養殖業成長産業化総合戦略により、海外輸出拡大を視野に入れた生産目標増産への舵取りを進める中で、平成23年から続く適正養殖可能尾数については、各県の判断に任せる形になりました。

国に対しては、増産した魚の国内還流による価格下落が起きた場合の対応策として、新たな補填策を考えるよう、全国海水養魚協会から強く働きかける所存です。

また県内養殖が生き残る上では餌飼料の確保や海外輸出への対応などが、重要課題ですが、夏場の高水温による成長不良や、疾病による斃死の増加など、新たな問題も発生しております。

そのような中、当組合としましては、餌飼料価格の高騰対策としてセーフティーネット構築事業や生餌調整保管事業等の推進にも引き続き尽力し、また産地間競争におきましては「さぬき海の幸販売促進協議会」と協力し、引き続き香川が誇るブランド食材であるハマチ3兄弟のひけた鰯、なおしまハマチ、オリーブハマチや、オリーブ水産物としてオリーブマダイ、オリーブサーモンも含めた販路拡大とブランド強化に積極的に取り組んで参ります。

本年も、県水産課並びに香川県漁連、系統団体の皆様方からのご協力を仰ぎ、また期待にお応え出来るよう役員一同一丸となり、頑張っていく所存でございますので、何卒、尚一層のご指導ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

最後になりますが、関係各位の皆様のご健勝とご発展を祈念し、年頭のご挨拶とさせていただきます。

一般社団法人 香川県海苔養殖研究会

代表理事会長 明 石 博 行

新年明けましておめでとうございます。令和8年の年頭にあたり、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

昨年中は当研究会の事業運営につきまして、会員の皆様を始め、関係団体の皆様には格別のご支援を賜り誠に有難うございます。

さて、昨年を振り返ってみますと、海水温が急激に低下した影響からチヌ等による食害の被害は少なく、また、栄養塩は低水準で推移しましたが、色・伸び共に順調であったことにより、3月の最終共販まで品質・数量ともに例年以上の生産となりました。

価格面では九州地区が不作の為、共販平均単価は12月の32円台から3月の15円台まで高値で推移し、低等級の製品についてもほぼ10円以上の札が入り、共販枚数・共販金額共に前年度を大幅に上回りました。また、無札はなく共販を終了することができました。結果、共販枚数3億660万枚（前年比187%）、共販金額71億3,565万円（前年比307%）、平均単価23円27銭（前年比9円7銭高）の実績となりました。

近年は、海水温の上昇、鳥や魚による食害等に加えて貧栄養化の影響も大きくなり、海苔の生産環境は厳しさを増し、減産要素を多く含んでいる中、食害対策等が効果的に発揮されるよう実用化に向けた取組みを継続し、貧栄養化対策については、令和6年3月に策定された「香川県栄養塩類管理計画」に基づく栄養塩類増加措置による、下水処理施設の季節別運転管理の動向に注視してまいります。

また、香川ノリの普及 PR 活動に於いては各種イベントに参加、出前教室等を実施することができました。これからも香川県産ノリの販売促進と消費者への知名度向上に努めてまいります。

本年度の海苔養殖業においては、採苗は10月1日、育苗は10月26日、本張りは11月22日から開始しましたが、低栄養塩の影響で本張りが例年に比べて遅れていますが、今後の生産に期待したいと思います。

本年も、県水産課並びに香川県漁連、系統団体と協力しながら皆様のご期待にお応え出来るよう、全力を尽くす所存でございます。何卒、本年も変わらずのご支援を賜りますようお願い申し上げます。

最後になりますが、会員各位、関係者の皆様のご健勝と本年海苔漁期の豊作、並びに皆様笑顔で漁期終了を迎えられることを祈念し、新年のご挨拶とさせていただきます。



一般社団法人 香川県水産振興協会

会 長 嶋 野 勝 路

新年明けましておめでとうございます。

令和8年の年頭に当たり、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

昨年中は当協会の業務推進につきまして、会員の皆様を始め関係団体の皆様には格別のご支援、ご協力を賜り心より厚くお礼申し上げます。

さて、昨年を振り返ってみますと、過去最も早い梅雨明けとなるなど季節進行が早く、平均気温は観測史上最高を記録する顕著な猛暑でありました。早く長い猛暑の到来は、商品需要やエネルギー需要にも影響があったかと思われます。

国内水産業におきましても、猛暑による海水温の上昇は、水産資源に影響を与え、水揚げの低迷等の要因の一つとなりました。また、物価の高騰による消費の減少も懸念されており、本年も水産業における影響が気になるところです。

令和8年度の本協会の事業といたしましては、引き続き4月初旬から12月中旬までマダコ、ヒラメ、クルマエビ、キジハタ、メバル等の重要魚種の種苗放流を継続実施し、水産資源の維持増大に努めてまいります。また、水産物消費対策事業では、魚食普及の推進が大きな課題となっており、県産水産物の食材活用を目的とした水産食育教室を開催し、学校給食にはハマチをはじめとした県産水産物の食材活用を推進していきます。

近年増加している海中転落をはじめとした海難事故については、関係機関と連携し、ライフジャケットの着用推進を目的とした海上呼掛け運動を実施し、会員の皆様への法令遵守の啓発に努めます。併せて、ネットローラーの巻き込み防止装置や船舶自動識別装置(AIS)につきましても設置推進を図ってまいります。

漁場環境保全対策事業としては海浜清掃事業等の支援を行い、大量の海岸漂着ごみの回収に協力してまいります。

新規漁業者の確保や育成を目的として、開講しました「かがわ漁業塾」は昨年から募集回数を年2回に増やし、現在、12期の3名が受講中、13期の塾生を広く募集しています。

最後に、令和8年が事故無く豊漁となりますよう祈願し、併せて会員並びに関係者皆様のご活躍とご健勝を祈念申し上げ、新年のご挨拶といたします。

全国漁業協同組合連合会

代表理事会長 坂 本 雅 信

あけましておめでとうございます。年頭にあたり、全国の皆さまに謹んで新年のご挨拶を申しあげます。

近年、国内外における社会・経済情勢は混迷を深めており、漁業を取り巻く状況についても前浜の魚種の変化や漁獲量の大幅な変動、魚介類の育成に必要な藻場・干潟の減少などが顕著になっております。

また、昨年は陸奥湾におけるホタテガイや瀬戸内海におけるカキの大量斃死など、全国各地で「海洋環境の激変」が原因とみられる被害が多発した1年でありました。

この「海洋環境の激変」という難題に的確に対応し、水産資源の持続的な利用を実現していくため、JFグループでは、「海洋環境の激変に立ち向かうJF自己改革の断行」をスローガンとした5カ年の運動方針を策定し、昨年4月からスタートさせたところです。

私自身、日本の漁業にはポテンシャルがあると確信しており、今がまさにそのポテンシャルを引き出す時だと考えております。そこで、JFグループでは運動方針の下、漁業者およびJFの経営基盤の強化を図るとともに、自らが取り組む事業や経営に関する改革を進めて参ります。さらに、海洋環境の激変や物価上昇による漁業用の燃油・資材・餌飼料価格の高騰、ALPS処理水の海洋放出に伴う海外における水産物の輸入規制などの課題克服に向けて、組織の総力をあげて取り組んで参ります。

また、地域ごとの実態やニーズを踏まえて水産業・漁業を振興させることを目指して、「浜の活力再生プラン」、「広域浜プラン」の実践や異業種企業、農林業・商工業者との連携を図るとともに、将来を見据えた資源と環境を同時に回復させるための「環境回復型漁業」にも力を入れて参ります。併せて、プライドフィッシュプロジェクトなどを通じて、日本産水産物の消費拡大の一翼を担っていく所存です。

JFグループ関係者の皆さまにおかれましても、これまで以上に英知と総力を結集していただき、本会の活動に対して、引き続きのご協力・ご賛同を頂きたいお願い申し上げます。

最後となりますが、漁業の豊かな将来を念じつつ、全国各地でご活躍の皆さまの操業の安全とご繁栄・ご健勝を祈念いたしまして、新年のご挨拶といたします。

ライフガードレディース によるライフジャケット推進運動

海難事故防止啓発事業の一環として、日頃よりライフジャケット着用推進運動に取り組む「ライフガードレディースかがわ」（石原千代子会長）のメンバーを中心に、11月27日（木）香川県高松～中讃海域で操業中の漁業者に対し、ライフジャケットの着用を呼びかける海上パトロールを行いました。

県指導船「ことぶき」に乗船し、石原会長と部員らが交代で海上呼びかけを行い、非着用者には接近して着用推進を呼びかけたところ、全員呼びかけに応じてもらえました。今後の活動の中では、漁業者に対して関係組織等が啓発することが必要ではあるが、家族の日々の呼びかけが大事であると石原会長は話されていました。



おさかな大使通信

《阪神髭定フェア開催》

11月27、28日に阪神髭定の阪神梅田本店にてオリーブぶりフェアが開催されました。阪神梅田本店でのオリーブぶりの紹介は初めてとのことでしたが、不安もありましたが、たくさんのお客様に知っていただけるきっかけになったと思います。試食では、オリーブぶりのお刺身を提供させていただきました。“ぶり=火を通して食べる”というイメージが関西の皆様には強かったようで、「このぶりは生で食べられるの？」と聞かれることも多く、地域性を感じました。

ぶりは脂っこいから・・・と試食前は少し苦手意識を感じていたり話していた方も、食べた後には脂が重たなくてすごく食べやすい！美味しいね！と言って購入して下さったり、オリーブ水産物の「後味がさっぱりしていて食べやすい」という魅力を感じ

てもらえてとても嬉しかったです。

任期も残りわずかですが、2026年も香川県の水産物の魅力を伝えるため尽力してまいります。

（前出 海里）



《中讃秋のぴちぴちとれたて市》

11月29日にボートレース丸亀で開催された、第21回中讃秋のぴちぴちとれたて市に大使3人で参加しました。貝殻お絵かき体験、ブリやアカエイの試食に、魚のつかみどりなど楽しい内容盛りだくさんのイベントでした。私達おさかな大使は、ブリやアカエイの試食、ビンゴゲーム、魚の模擬競りを一緒に盛り上げさせていただきました。

ブリとアカエイの試食では、どんな特徴の魚なのか、また今回の試食料理の作り方や他の調理レシピなどもお伝えしながらお渡しさせていただきました。試食はとても好評で、皆さん口に入れた瞬間から笑顔が溢れていて、こちらまで嬉しくなりました。また、魚やレシピに興味をもってくださる方もたくさんおられました。

そしてイベントの最後を飾った魚の模擬競りコーナー！こちらは新鮮なオリーブハマチやマダイ、アジにアワビなどなど、新鮮な魚介類が普段よりお安く手に入る素敵なチャンスでした。子供連れのご家族も多く参加してくださり、それぞれお目当ての魚介類を手に入れるために楽しく真剣に競っていました。このイベントが今まで以上に香川の水産物に注目してくださるきっかけとなれば嬉しいです。皆さまご来場ありがとうございました。

（真鍋 みずは）

